教材研究ノート№2-A-19

≪学習問題≫

（12段×4列のロッカーの写真を提示して）

このロッカーの数は，いくつあるでしょう。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・1桁×1桁のかけ算九九，10のかけ算ができる。

・乗法の交換法則，かけ算のきまりを理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・2年「かけ算」で，1桁×（10何）の求め方を学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・被乗数が10をこえるかけ算は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・アレイ図を使って，九九を求める学習をしている。

・乗数と被乗数を交換しても積は変わらないことを学習している。

≪学習問題≫



主眼

授業計画･実施記録

②見通し：かけられる数が10より大きいから計算できない。

→アレイ図を使って分けたり表で増やしたりすればよさそうだ。

さ

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題：アレイ図を分けたり，表で増える数を調べたりして，九九を用いてロッカーの数を求めよう。

③個人追究：図や表と式とつなげて追究し、求め方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どちらの求め方にも共通していることはなんだろう？」

→「分けたり順に増やしたりして九九が使える形に直している。」

④共同追究後半（思考を深める）

「12×4と4×12は，同じと考えていいのかな？」

→「アレイ図で書くと，12×4は　　4×12は　　　　　になるから，同じになる。」



⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・分けると九九を使って計算できる。

・かけられる数が10をこえても，分けたり合わせたりして九九を使って計算できる。

・1けた×(10何)でも，12×4＝4×12　ができる。

⑥定着･活用問題

封筒の中に入っている紙に，きれいに並べて書かれている●の数を計算しました。●は横にいくつ並んでいるのかな？

●　●　●

●　●　●　　　　　7×3＋6×3＝39

●　●　●

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・単に九九を暗唱できるようにするだけでなく，各段の数の並びにあるきまりを見つけながら学習を進めてくることが大切である。

・「12×4」は作れたが九九表にないので求められない，という困難の自覚を大切にし，既習とつなげる子どもの発想を待ちたい。

・12を10と2に分ける見通しを持ちやすいように，予め九九表を10×10の表まで拡張する学習を行っておくとよい。

・

【板書計画】